

パーキンソン病について No7



話題の新薬 アメナリーフ錠

抗ヘルペスウイルス剤

パーキンソン病の薬物治療について

ドパミンアゴニスト

① 作用

ドパミン受容体に直接作用することにより、パーキンソン病で足りなくなったドパミンの作用を補い、症状を改善します

② 特徴

パーキンソン病の運動症状を改善します
L-ドパより効果は弱いですが、効果が持続します
この薬剤で治療を始めることで、L-ドパ治療に伴った運動合併症の発現を遅くできます

③ 薬剤名

薬剤の化学構造の違いにより、麦角系と非麦角系の2種類があります

非麦角系

- ニュープロパッチ 2.25・4.5・9・13.5・9・18mg
1日1回 9～36mg 貼付
- ミラペックス LA錠 0.375・1.5mg
(プラミペキソール塩酸塩 LA錠 1.5mgMI)
1日1回 1.5～4.5mg
- レキップ CR錠 2・8mg
1日1回 2～16mg

麦角系

- カバサール錠 0.25・1mg
(カベルゴリン錠 0.25・1mg)
1日1回 0.25～1mg



④ 副作用

- 悪心・嘔吐・食欲不振
投与初期にみられるが、慣れてくると消失する
- 幻覚・妄想
目に見えない物が見えるなどの症状がみられる
- 日中の過度の眠気、突然の眠気(突発的睡眠)
非麦角系ドパミンアゴニストに多い
- 心臓の弁の異常(心臓弁膜症)
麦角系ドパミンアゴニストの長期使用で出現

アメナリーフ錠は、マルホで開発された抗ウイルス剤である。本剤は非核酸類似体であり、ヘルペスウイルスのDNA複製に必須の酵素であるヘリカーゼ・プライマーゼ複合体の活性を阻害することで、水痘・帯状疱疹ウイルスなどのヘルペスウイルスの増殖を抑制する。既存の抗ヘルペスウイルス剤と作用機序が異なるため、交差耐性を示さないと考えられる。1日1回投与であり、食事の影響を受けるため、食後に投与する。また、腎機能による薬物動態への影響は小さいため、クレアチニンクリアランスに基づく投与間隔・投与量の調節が不要である
薬価 200mg 1錠=1469.7円

副作用情報 プラザキサグセル

NBIから販売されている血液凝固阻止剤の「プラザキサグセル75・110mg」は、直近3年2か月の副作用報告であって、因果関係が否定できない副作用として、「肝機能障害関連症例」が5例(うち死亡1例)報告された。そのため重大な副作用の項に「急性肝不全、肝機能障害、黄疸」が追記された。

おたふくかぜ軽視は禁物

4～5年おきに大きな流行があるおたふくかぜは「子どもの軽い病気」と誤解されがちだ。中でも合併症の難聴は、改善が困難なのに実態が知られていないとして、日本耳鼻咽喉科学会が全国調査を実施、過去2年に300人以上が発症したことが分かった。おたふくかぜに特效薬はないが、予防ワクチンはある。専門家は「ワクチンは自然に感染するよりはるかに安全。ぜひ接種を検討して」と呼び掛ける。学会が、流行した2016年と前年について調べたところ、全国約3500の耳鼻科で336人が難聴と診断され、詳細が判明した314人のうち261人(約8割)が生活に支障があるレベルの症状だった。

